



オリシッポ ラパパレス「Olissippo Lapa Palace」の正面玄関車寄せ。ラパパレスは1870年に地元の子爵によって建てられた館が起源で、その後ヴァレンサス伯爵の手に渡った87年に宮殿（パラシオ）へと改築されている。ポルトガルに本拠を置く「Olissippo Hotels」グループのフラッグシップホテルであり、LHWのメンバーホテルでもある



館内は本館のパレスウィングを中心に三つの異なるセクションから成り立ち、各ウィングを囲むように鬱蒼とした樹林の庭園が広がり、明るい芝生のガーデンにはリスボンで唯一のオープンエアのスイミングプールがあって、都心に居ながらアーバンリゾートの気分を満喫できる



正面ファサードはコロニアルスタイルの瀟洒な邸宅といった趣だ。多くの大使館や大邸宅が集まる、リスボン有数の高級住宅地にある隠れ家的な邸宅ホテルと言える



正面玄関に立つ正装したドアマンとベルスタッフ



ゴージャスなエントランスホール。右手にレセプションデスクが見える



贅沢な内装は国王 D. ジョアン五世と王妃 D. マリアにより、ポルトガル北部で花開いたアールデコ様式、コロニアル様式、新古典主義様式などのスタイルを再現している



筆者 **小原 康裕**
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。
1974年 Munich Re 入社。
2001年投資顧問会社原健設立、
代表取締役 CEO。
JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント
協会常務理事。
SKAL International Tokyo、
Professionnels du Tourisme 会員。
JARC、日本宿泊施設関連連協会
アドバイザーボードメンバー。

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
www.hoteresonline.com
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

Olissippo Lapa Palace

オリシッポ ラパパレス「Olissippo Lapa Palace」は、多くの大使館や大邸宅が集まるリスボン有数の高級住宅地にある邸宅ホテルである。ラパパレスは1870年に地元の子爵によって建てられた館が起源で、その後ヴァレンサス伯爵の手に渡った87年に宮殿（パラシオ）へと改築されている。正面ファサードはコロニアルスタイルの瀟洒な邸宅といった趣だが、贅沢な内装は国王 D. ジョアン五世と王妃 D. マリアにより、ポルトガル北部で花開いたアールデコ様式、コロニアル様式、新古典主義様式などのスタ

イルを再現している。19世紀のポルトガル上流階級の社会観を色濃く残し、アズレージョ（装飾タイル）や壁画・天井画が加えられた美しいパラシオと言える。

ラパパレスはポルトガルに本拠を置く「Olissippo Hotels」グループのフラッグシップホテルであり、LHWのメンバーホテルでもある。館内は本館のパレスウィングを中心に三つの異なるセクションから成り立ち、伝統的なインテリアのパレスウィングの奥に、コンテンポラリーなガーデンウィングと滞在型ヴィラタイプと続いている。各ウィングを囲むように鬱蒼とした樹林の庭園が広がり、明るい芝生のガーデンにはリスボンで唯一のオープンエアの



ボールルームの豪華なテーブルセッティング



メインダイニング「Lapa Restaurant」はエレガントな雰囲気地中海料理を堪能できる



明るいバーラウンジ「Rio Tejo Bar」



クラシカルなラウンジ「Ciger Room」



朝食はゆったりとした専用の「Breakfast Room」が用意される



天気が良ければ、テラスでのブレックファストも楽しい



本館パレスウィングのスイート「The Tower Room」のベッドルーム。約85㎡の広さを持ちリスボンで一番眺めの良いスイートとして評価され、プライベートバルコニーを二つ持つ



「The Tower Room」のゴージャスな玄関ホワイエ



アズレージョ（装飾タイル）が印象的なバスルーム

スイミングプールがあって、都心に居ながらアーバンリゾートの気分を満喫できる。

ラパパレスはスイートを含む全109室を擁し、1992年にホテルとして開業した。今回は本館パレスウィングのスイート「The Tower Room」をご紹介します。約85㎡の広さを持ちリスボンで一番眺めの良いスイートとして評価され、プライベートバルコニーが二つある。そのうちの一つはタワーラームの由来であるタレット（宮殿に付属する小塔）が見晴らし台のテラスとなっている。メインダイニング「Lapa Restaurant」はエレガントな雰囲気地中海料理を堪能できる。また、朝食は専用の「Breakfast

Room」が提供され、テラスでのブレックファストも楽しい。その他、メンバーの「Rio Tejo Bar」やラウンジ「Ciger Room」も充実している。スパ施設「Lapa Palace Spa」は英国のスキンケアブランドの「Elemis」が提携し、インドアプールも用意されている。

ラパパレスはリスボンの中心地、街の喧騒をはるか下に聞く丘の上に建ち、港に停泊する船舶やテージョ川の景色を俯瞰する趣ある立地だ。スタッフはとてもフレンドリーで気さくに対応してくれて気兼ねなく滞在できる。歴史的な格式を持つホテルだが、堅苦しさを感ぜさせない本物のホスピタリティーが感じられる隠れ家的な邸宅ホテルと言えよう。



ベッドルームから直接出られるテラス。その向こうにタレット（宮殿に付属する小塔）が望める



タワーラームの由来であるタレットが見晴らし台のテラスとして利用できる